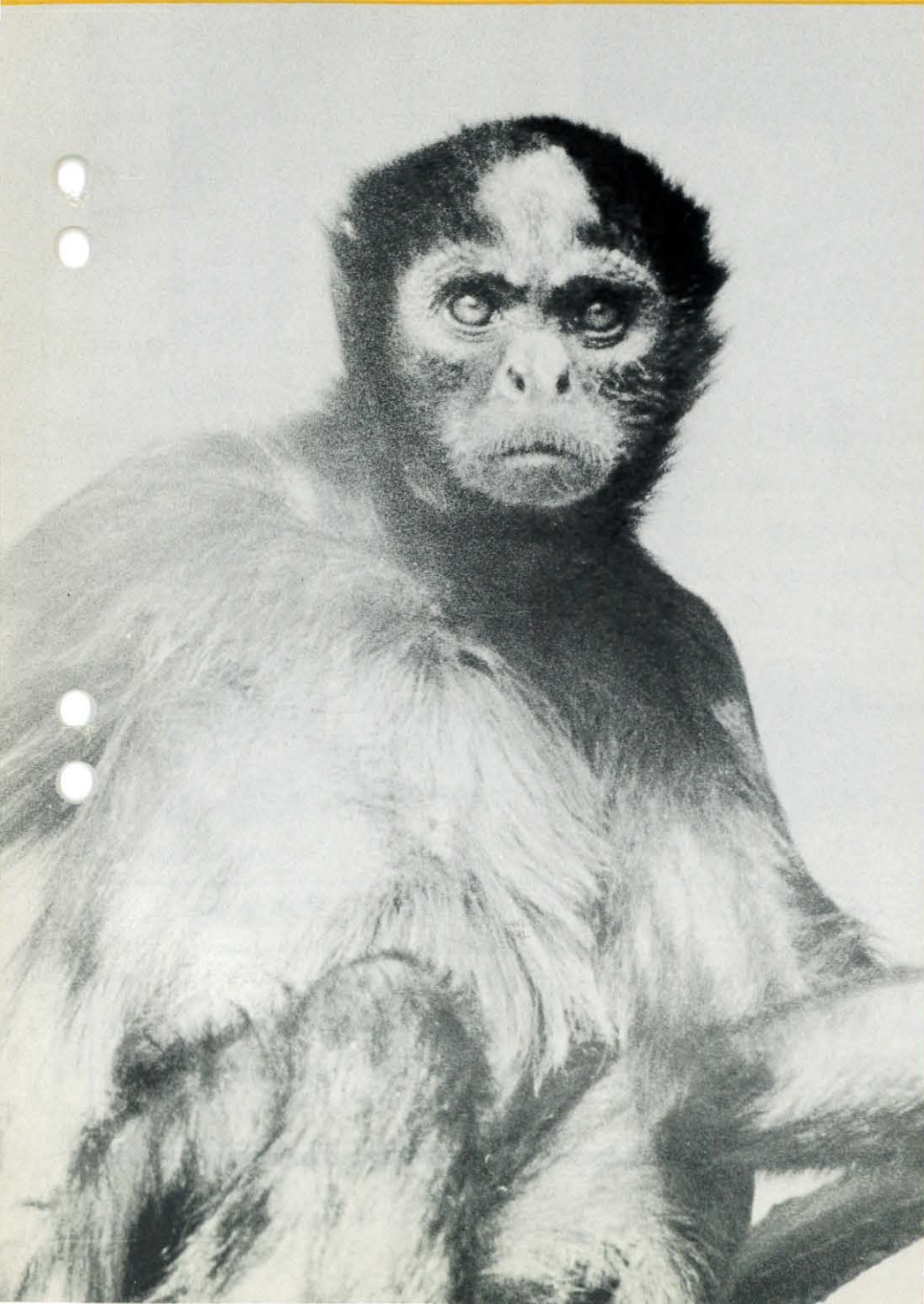


# なきごえ



1978

3

大 阪 市  
天王寺動物園協会

## 動物と私

杉本 健

大和川を渡ると、そこには千年余りの歳月を経た陸稜が点在し、沼や芦原をかたちづく大水田地帯の中に包み込まれ、長い時が培った風韻を宿して大阪平野が広がっている。



今から20数年前を出でぬ頃、初夏の夕べにはヨシキリ（夏鳥として日本に飛来するウグイス科の鳥で、冬はインド、インドシナ半島へ渡る。）の大合唱やカイヅブリ（全国各地の湖や河川に普通に見られる小型の水鳥で、潜水がうまく、水草などを積み上げて浮き巣を作る。）の叫びが聞こえ、夕陽に映えて帰る白サギの大編隊が地平に沈みゆくようにはるばると何かもの悲しく眺められた。夜が来れば、クイナ（主として夜活動する。水辺に住む鳥で、北海道、本州の北部で繁殖がみられる。）がコンコンと鳴いた。

今、大阪平野に生物の姿は少なくなってしまった。それは、避け難い自然のうつろいのためであろうか。しかし、私は短い期間であったけれど彼らと共に過ごせた日々を懐しく思う。もう一度、夏の白く乾いた道をハンミョウ（体長約20mmの甲虫類。色彩が美しい。）に導かれながら歩き、タデ（湿地の草原や河

岸に自生する一年草で、茎・葉に特有の辛味があるので時に栽培される。）の花の中に潜むハナムグリ（ハナムグリとは花にもぐるという意味で花によく集ることからこの名が付いたコガネムシの一種。）の青い姿を見つけないものだ。あるいは冬の嵐のような鳴の群れの羽音を寒い夜更けに聞きたいと思う。大阪平野は、あの無限なるものを失いつつある。蝶も蜂もない寂しい春が幾度かめぐり、花は虫たちに花粉を運ばれることもなく虚しく散っていった。しかし、虫が少なくなっても木々はみごとに育った。一片の虫喰い葉も無く黒く茂る木はちょっと無気味にも見える。植物もまた、共に住むものを失ったのだらう。

チェーホフは、戯曲「桜の園」の中で、滅びゆくものの哀愁を記しながら、アーニヤとトロフィーモフの若い二人をして新しい園を作らせる。古きものよりずっと立派なものをというのだ。桜の園の斧の音はなお続くのだらう。この斧の音は沈黙の春の山野に響き渡るであろう。私たちも、その姿を見習わなければならない。動物を愛し、共に生きた人々がその思い出を語りかけ、この素晴らしい世界のあったことを伝え続けてほしいと思う。そして、破壊された自然に私たちの手で、新しい生命の息吹を取り戻してゆきたい。

（大阪府鳥獣保護員）

（）内の説明は編集部による。

### なきごえ3月号もくじ

動物と私	2
アカカンガルーの赤ちゃん	3
動物園グラフ・日記	4・5
モウコガゼル	6・7
天王寺の動物たち	8・9
上海動物園からの便り	10
動物園ニュース	11

### 表紙の写真説明

#### “ケナガクモザル”

4種あるクモザルのうち、このケナガクモザルは、南アメリカの北部に住んでいる珍しいクモザルです。額の白い斑点が特徴です。

（撮影：野口 秀高）



### “アカカンガルーの赤ちゃん”

昨年9月頃から袋の中に入っていたアカカンガルーの赤ちゃんは、1月早々から袋から顔を出すようになりました。最近ではほとんど袋の外に出っぱなしで元気よくはね回っています。

（撮影：葎谷 文彦）

# 動物園グラフ

## “モウコガゼル”

中国をのぞけば世界でも当園だけにしかない珍しい珍しいカモシカの一種、モウコガゼルを特集してみました。(本文6～7Pもご参照下さい)

(撮影：宮下 実)



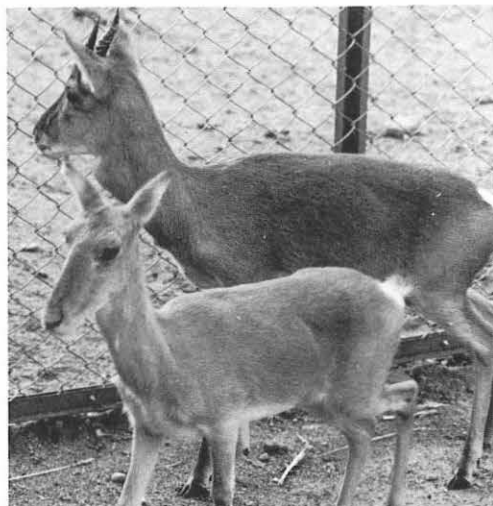
オスはかなり気が強く、金網ごしにシカなど ↑ とよく角突きあわせをします。



追い回しました。このようにオスがメスを → 入園当初、一緒にすると



↑ 角にゴムホースを付けました。メスへの危害防止のために、オスはよく慣れていたため、←



↑ 検疫を終え当園に入園して1ヶ月目の時です。オスの角はまだ短かく、2頭共若々しい感じです。



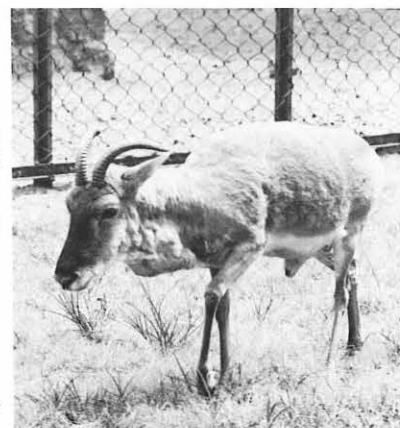
↑ 誕生50日目、母仔仲よく並んだところです。



↑ 母仔で出しました。誕生一週間目、初めて放飼場に ←



↑ 誕生2日目、寝室で母親が仔の世話をしています。



↑ の特徴です。のどのところのふくらみも一つになり、風格もでてきました。入園から3年、オスも角が立派 →

↑ 雪の中でも平気で歩き回ります。冬の寒さにも慣れたようで、 →



## 1・2月の動物園日記

- 1/9. キジのオス1羽が寄贈されました。
10. インドゾウのヒロ子が右前足をピッコひいていましたので薬を塗ってあげました。
11. ワシミミズクが産卵しました。
12. 小鳥舎の小鳥類がカゼ気味なので薬を飲ませました。
13. 南園のカルガモが1羽死亡しました。
14. コガモとヒドリガモが入園し、南園の日本庭園に放しました。

15. オナガガモを日本庭園に放しました。
17. ショウジョウトキのメスが気のうたのため死亡しました。
18. アオカケイがピッコをひいているので治療してあげました。
- ダチョウのメスが寒さのため倒れましたので治療しています。
20. 治療中のジャングルキャットとチョウセンヤマネコはすっかり元気になりました。
22. メンヨウが出産しましたが死産でした。
- フンボルトペンギンが1羽ふ化しました。

23. ゴールデンキャットがセキをしているので薬を飲ませました。
25. 大阪ズー・ボランティアーズの機関紙「おおずぼら」の3号が発行されました。
26. チンパンジーの洋子がカゼ気味なので薬を飲ませました。
27. 治療中のゴールデンキャットがすっかり回復しました。
28. 昨年8月頃生まれたアカカンガルーの子供が袋から顔を出すようになりました。
30. イワトビペンギンが産卵しました。

- 2/1. 骨折し衰弱していたキンイロキンケイが死亡しました。
2. マンドリルのメスが右手をケガしたので消毒薬を塗ってあげました。
3. 寒さのためパティコファーゲノンのオスが死亡しました。
4. オオタカが寒さのため元気がなくなっていたので研究室に入院させました。
5. オランウータンのサツキが外耳炎をおこしているため治療を始めました。

## モウコガゼルの繁殖

### ◎はじめに

昭和49年9月6日、当園に入園したモウコガゼルが、昭和52年8月2日、待望の初の出産をし、その後仔も順調に育っていますので、入園から繁殖、仔の成長経過について述べてみたいと思います。

### ◎入園の経過

昭和49年、中国との国交正常化に伴い、北京動物園と当園の間で日中親善動物交換を行うことになりました。当園からはアカカンガルー1番い、ルリコンゴウインコ4羽を贈り、北京動物園からはモウコガゼル1番いとタンチョウ1羽が贈られて来ました。日中友好親善大使としてモウコガゼルが日本に着いたのは昭和49年8月6日でした。中国は有蹄獣の伝染病汚染地域であり、又中国から戦後初の有蹄獣の渡来ということもあって1ヶ月の検疫を余儀なくされました。



検疫中のモウコガゼル

この検疫中は当園の獣医1名が飼育管理及び発病の有無の監視ということで30日間、検疫所の隔離畜舎で泊りこみました。従って実際に当園に入園したのは9月6日でした。

### ◎収容場所と餌

当園に入園するにあたり、その収容場所と飼育方法が問題になりましたが、新設する場所がないためカモシカ園の一角約100㎡を柵で仕切り、ここに収容しました。飼育方法に関しては中国から送られた資料を参考にしました。中国船での輸送時に与えられていた餌は干草、柏葉、トウモロコシの粉を主とした配合飼料のかたねりしたものが与えられていましたが、当園到着後は青草、大根菜、ニンジン、ジャガイモ、ペレット、パン、フスマ、牧干草、ヘイキューブを与え、特にパンとペレット（草食獣用の固型飼料）は好食しました。

### ◎両親の記録

入園当時このモウコガゼルを担当していた葭谷係

員の記録によると、オス、メス共に推定年齢2才位で、オスは体高70cm、メスは65cmで、オスには約20cmの角があり、全部で8段の角輪が認められ、基部から5段目までは溝ははっきりしていました。体の

特徴としては体色はオスは薄茶色で顔の部分は黒っぽく、メスは全体的にオスより白っぽい体色で、毛質はやわらかく長めで、ご婦人達がさわるとたちまち気に入られて毛皮にでもされそうなの肌ざわりの良い毛でおおわれ、尻部にはオス・メス共ハート型の白い毛があります。冬毛は2月中旬から4月初旬にかけて夏毛に換毛し、8月初旬から9月中旬にかけて冬毛に換毛することが分りました。顔は面長で俗にいう馬づらで、メスの方は一見テリア犬の様な顔つきです。体型はズングリ型ですが肢の回転が速くダッシュ力があり、脚力の豊かさが伺えます。走行は直線走行型で、チーターに次ぐ快速の持主といわれているだけに、100㎡ほどの狭い放飼場ではそのスピードを充分発揮してもらえないのが残念です。

オスはかなり人慣れしており、入園当初から落ち着いていましたが、みかけによらず気が強くフェンス越しに寄って来る他のカモシカ類に対して、かなりしつこく角を突きあわせることがありました。これに対しメスはかなり神経質とみえて、現在でも落ち着きのない様子がしばしば見られます。

尾の特徴としては、一般のアンテロープにみられる先端に房の付いた細長い尾ではなく、ニホンカモシカ型の毛でおおわれた太短い平べったい尾をもっています。

入園当初は寄生虫感染の心配があったため、毎月1回定期的に虫卵の検査をしましたが、初回に毛様線虫の虫卵が認められ、その後の検査で鞭虫卵も認められましたが、駆虫薬の投与により駆虫することができました。

オスはかなり大きな太い声でゴッ、ゴッと鳴きますが、メスは丁度シャックリの様な声を出します。季節的には梅雨時期が一番苦手なようですが、特に雨及び蒸し暑さには強くないようで、猛暑の中、長



入園1ヶ月目

時間放飼していると口をあけて呼吸することがあります。又、聴覚はかなり鋭く、少しの音でも反応を示しますが、嗅覚は余り鋭敏とは思えません。この点では同じカモシカ園で飼育しているベイサオリックスとよく似ています。前述の通りオスはかなり気が強く、オス・メス共に放飼した場合、メスがオスに追い回され、オスの角によって負傷することも考えられましたので、オスの角に約15cmのゴムホースをかぶせることにしました。幸いオスは人慣れしているためか容易に取り付けることができ、オス・メス同時に放飼する場合に限りゴムホースを装着しました。

### ◎発情及び妊娠

初めての発情徴候は昭和50年12月17日に認められました。メスはひんぱんに鳴き、尾をせわしく動かし、度々拳上しました。その後は昭和51年1月15日2月13日と29日周期で発情が認められ、2月13日の時にはオスと同居させたのですが、オスはメスを角で突き上げるため、すぐに分れました。この発情以後、発情は認められませんでした。冬を迎えた12月1日、12月30日と又、29日周期の発情が認められ、次の発情予定日昭和52年1月28日を心待ちにし、準備を整えていたところ、予想した通りに1月28日に発情が認められ、さっそく同居を試みました。今度は昨年2月のようにオスがメスを角で突きあげることもなく、うまく交尾をしてくれました。この交尾後は発情も認められず、受胎した可能性が強まりました。交尾後6ヶ月を経過した7月中頃より乳房のふくらみが目立ち始め、7月末頃にはふくらみも増し、胎動らしきものも確認されました。しかし、モウコガゼルの飼育は中国を除けば世界でも初めてのことであり、妊娠期間も不明なため、いつ出産するかは確認はもてませんでした。

### ◎出産、仔の成長経過

昭和52年

8月2日、一応寝室は敷ワラなどの準備はしてあったのですが、まだ大丈夫だろうということで放飼



生まれて2時間

場に出しておいたところ、午後1時20分、出産直後のところを発見しました。生まれた仔はメスで、誕生時は白っぽいクリーム色で、体長53cm、体高42cmと非常に大柄な子で、ブラックバックの仔と似た感じでした。2時間半後に第1回目の哺乳がみられ、その後も母親が落ち着いていたせい、順調に哺乳もみられ、まずは一安心でした。誕生後7日目から放飼場に母子一緒に出し、35日目に餌に興味を覚えたらしく餌をくわえたりするのが認められ、40日目には確実に採食するのが認められました。この頃になると体色もかなり濃くなり、特有の尻部のハート型の白毛が目立つようになり、60日目頃には母親の体色とほぼ同じになり、90日目には体長85cm、体高52cmにまで成長しました。7ヶ月を経た現在では体の大きさも母親とほぼ同じ位になり、顔も段々と馬づら化してきた感じ



生後1週間目、初放飼場に出しました。

今後の課題としては多くの繁殖を旨とするのももちろんですが、何ぶんにも収容場が狭いため、広くて十分なスペースのある収容場で飼育し、モウコガゼルに関する資料を数多く作っていきたいと思っています。（飼育課：村田行雄、山野道雄）

### モウコガゼルについて

英名：Mongolian Gazelle 学名：*Procapra gutturosa*  
モウコガゼルは分類学上、偶蹄目ウシ科、レイヨウ亜科プロカブラに属し、このプロカブラ属にはモウコガゼル以外にはチベットガゼル (*P. picticaudata*) 及びこれの亜種といわれるブルツェワルスキーガゼル (*P. p. przewalski*) がある。モウコガゼルは別名モウコロレイヨウあるいはキスナヒツジと呼ばれており、中国名では黄羊、蒙古名でジェレンといわれている。モンゴル、中国東北部、アルタイ地方の砂漠にすみ、走るのが速く、一説には時速90km以上という記録もある。学名にある *gutturosa* は甲状腺を意味するが、オスのどの部分がふくらんでいることから名付けられたようであるが、このふくらみは甲状腺とは関係ないようである。北満野生哺乳類誌（昭和14年版）によれば、モウコガゼルの出産時期は5月末から6月始めで、出産頭数は普通2頭、稀に1頭、時に3頭と記してあり、妊娠期間については不明である。

## 天王寺の動物たち (19)

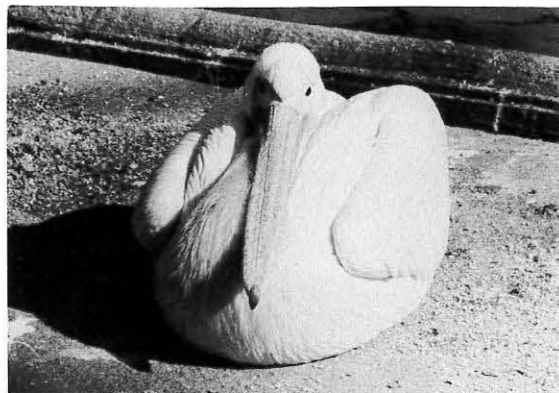
### ペリカン

#### §モモイロペリカンとカッシュクペリカン

北園の水禽放養舎に立つとすぐに目に付くのが、どっしりとして、大きな、モモイロの鳥です。クチバシの先から尾の先まで、1.8mもあるこの鳥がモモイロペリカンです。体重は約10kg。翼を開けると2.5mもあります。これは水鳥中、最大のもののひとつです。この鳥が飛ぶ時はバッサ、バッサとすごい音がし、他の鳥がこわがって逃げる程です。

南園の地下道を出るとすぐ左手に小さなプールがあります。左側にはクロエリハクチョウの夫婦。右側に居るのが、カッシュクペリカンです。こちらは片方の羽を切つてあるので飛ばませんが、冬の寒い時でも水浴びをするなど、元気一杯です。

今日はこれら2種のペリカンについてお話ししましょう。

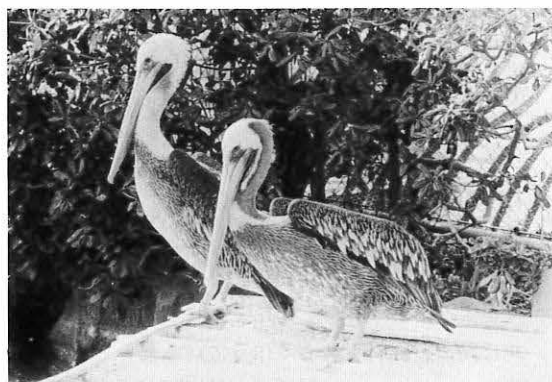


北園のモモイロペリカン。  
休息している所。

ヨーロッパ、西南アジア、アフリカと広く分布しています。普通は群れを作って生活し、多い時には数千羽もの大群になることもあるそうです。

カッシュクペリカンの方は南北アメリカ大陸、温帯部の太平洋、大西洋岸に住んでいます。こちらは8園で17羽が飼われています。

ペリカンの一番の特徴は足の水カキでしょう。足には4本の指があるのですが、どの指の間にも水カキがあります。ハクチョウやカモにも水カキはありますが4本の指のうち3本の間にだけあります。そして、足はとても短く、極端な内股なので、歩く時は体を左右に大きくゆすって、ヨチヨチと歩きます。とてもユーモラスな歩き方です。



南国のカッシュクペリカン

#### §ペリカンについて

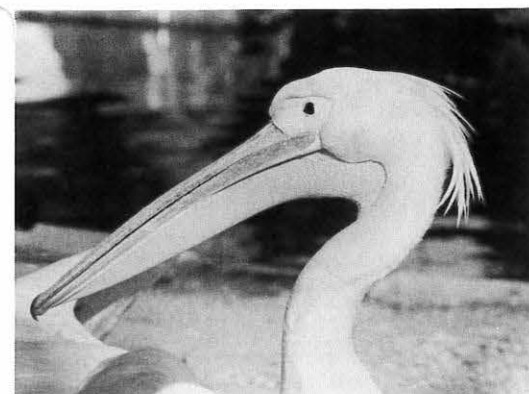
ペリカンはペリカン目、ペリカン科に属する鳥で8種あります。モモイロ、カッシュクの他にアメリカシロペリカン、ハイロペリカン、コシベニペリカン、コシグロペリカン、フィリピンハイロペリカン、チリーペリカンがあります。そして、南極大陸以外の全ての大陸にどれかのペリカンが住んでいます。

その中でも、モモイロペリカンはもっともポピュラーなペリカンと言って良いでしょう。日本では32の動物園で79羽も飼われていますし、野生では東南



すべての指にミズカキのある奇妙な足。

もうひとつの特徴はノドの袋でしょう。これは伸縮自在で、最高に伸ばすと13ℓの水(13ℓというと牛乳ビン約72本分です)が入るそうです。以前にはこの袋は食物を貯えるためのものと思われていたのですが、実際はエサの魚をとるためのアミの役割をするそうです。またこの袋にはもうひとつの役目があります。真夏の暑い時、汗をかけないペリカン達は袋を少し開け、口をパクパクとさせています。これは羽毛が無く、皮膚が裸出しているこの袋から熱を放散させて、体温を下げているのです。こういう具合にノドの袋はアミの役目とアセの役目の両方を行っています。



モモイロペリカンの頭部。ノドの袋は伸びると13ℓもの容積になります。

#### §聖なる鳥

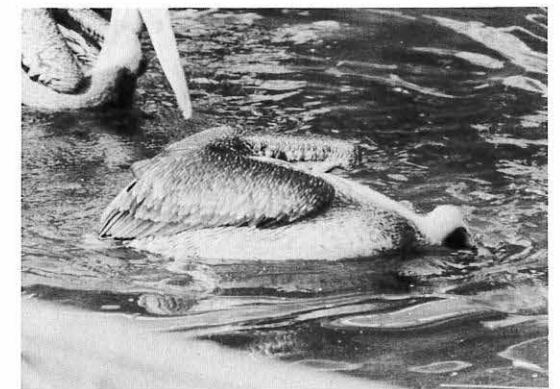
中世ヨーロッパのキリスト教徒の間ではペリカンは聖なる鳥と言われていました。その当時、ペリカンは自分の胸を傷つけ、そこから流れ出す血で、自分の子供を育てるとされていたのですが、このことが、自分の血や肉をもって人類を救おうとした、イエス・キリストのイメージと一致し、聖なる鳥とされたのでしょう。しかし、実際にはもちろんペリカンはそんなことはしません。恐らく、胸の羽をつくろっている所や、ヒナが親のノド深くまでクチバシをつっこんでエサをもらっている所を見た人が誤って伝えたことが元になっているのでしょう。

#### §エサのとり方

ペリカンが魚をとる方法にはふたつあります。

ひとつは「すくいあげ法」で、水中にクチバシをさし入れて、泳いでいる魚をすくいあげる方法です。もうひとつは「突入法」で、飛びながら魚を探し、見つけると翼を後にひいて、体を一直線にして、魚めがけて水中に突っこんでとる方法です。この方法は見ていてホレホレする程ダイナミックです。湖や川などによくいるモモイロペリカンは「すくいあげ法」が得意ですが、海に住むカッシュクペリカンは「突入法」が得意です。

動物園ではエサとして50g位のアジを1羽当たり20匹程あげています。魚はプールの底に沈んでしまうのでモモイロペリカンもカッシュクペリカンも「すくいあげ法」や「突入法」ができなくて、少し不満そうですが、エサをあげると飛んできて、アツという間にパクパクとすぐに食べてしまいます。



底に沈んだアジを食べる  
カッシュクペリカン。

#### §ペリカンの将来

ペリカンは魚しか食べません。しかし、このところ世界各国でとても大量に使われた農薬のDDTが魚をとおしてペリカンの体に入り込んできました。その結果、カラの柔らかい、こわれやすい卵をよく産むようになってきてしまいました。こうして、育つヒナが少なくなってきたペリカン達は、その将来がとても心配されています。

(飼育課・獣医師：長瀬 健二郎)

# 上海動物園からの便り

昭和49年8月、上海市西郊公園より贈られたクロオオカミが今年1月10日～20日の間、交尾が認められ、妊娠・出産の可能性が濃いため、上海市西郊公園に連絡をとったところ、下記のような手紙が届きましたのでその全文を御紹介しましょう。

日本大阪市天王寺動物園長  
中川道朗様  
一月十日の来函收悉。貴園に送る黒狼の繁殖に、我々も、大変関心を持って、手紙のやり取りを続けています。貴園の黒狼の繁殖に、誠心誠意努力されておられることを知り、その努力は必ず成功されることと信じます。ここで、黒狼の繁殖について、中国での状況をご参考に紹介したいと思います。交配が終われば、メスは隔離して飼育します。そして、環境を静かにし、動物舎内に早くから木製の産箱を置いて下さい。ご承知であろうと思いますが、(産箱は長さ110cm、巾65cm、高さ100cmのもので)箱の中には干草を敷いて下さい。黒狼は、干草を余り食べませんが、地上に敷いておくことがあります。もし、干草を沢山敷くならば、敷物用とされたらよいと思います。黒狼の妊娠期間は60日前後です。一般的に産まれる仔は3～6頭です。妊娠期の終わり頃は腹が大きくなり、はっきりと受胎していることが分ります。黒狼は敏捷ですが、憶病です。産後には特別の注意が必要ですが、驚くことはありません。初めての産をした黒狼は、メスとしての経験が欠けているか、母親としての自覚がないなどの原因によって、出産した仔を食べしてしまうことがあります。このために生まれた当時は、強く観察する必要があります。もし、メスが産箱内でごろごろと横になり、仔が音をたてて乳を飲む音が聞けるようであればこれは正常です。もし、メスが産箱の外にばかりいるのであれば、情緒不安のしるしです。仔が泣き叫ぶか、または乳をすっているところが見つからなければ、よく注意をする必要があります。その時は、仔を取り出して人工哺育する必要があります。人工哺育の時は、メスの乳と同様な乳を作って与えるのが一番好ましいです。貴国から我国に送られた一つがいのチンパンジーの飼育はよくなっています。ただ、メスの一頭の成長が少しよくありませんでした。昨年12月14日に、左腹内に鳩の胆に似た、やや大きい袋状の腫瘍を見つけました。袋状の腫瘍を診察した結果、切除する手術をすることにしました。正月七日に手術をした後、腫瘍を取り出したら、約5cm×4cmの大きさがありました。手術後、特別に1ヶ月をかけて処置しましたので、傷口も完全によくなくなり、すでに健康を回復しています。順調に成長することは間違いありません。彼らは、おもしろい動作を覚えて毎日沢山の観客の目を楽ませており、上海市民の歓迎をうけています。このことは我々両市の市民の友情の象徴です。最後に、我々の友情が絶えることなく発展することを心からお祝い申し上げます。

上海市西郊公園主任 趙佈



大阪市天王寺動物園々長  
中川道朗様

一月二十三日付書簡を拝見いたしました。お送りした黒狼の交配の写真を大変関心をもって拝見いたしました。貴園が黒狼の繁殖に誠心誠意努力されておられることを知り、その努力は必ず成功されることと信じます。ここで、黒狼の繁殖について、中国での状況をご参考に紹介したいと思います。交配が終われば、メスは隔離して飼育します。そして、環境を静かにし、動物舎内に早くから木製の産箱を置いて下さい。ご承知であろうと思いますが、(産箱は長さ110cm、巾65cm、高さ100cmのもので)箱の中には干草を敷いて下さい。黒狼は、干草を余り食べませんが、地上に敷いておくことがあります。もし、干草を沢山敷くならば、敷物用とされたらよいと思います。黒狼の妊娠期間は60日前後です。一般的に産まれる仔は3～6頭です。妊娠期の終わり頃は腹が大きくなり、はっきりと受胎していることが分ります。黒狼は敏捷ですが、憶病です。産後には特別の注意が必要ですが、驚くことはありません。初めての産をした黒狼は、メスとしての経験が欠けているか、母親としての自覚がないなどの原因によって、出産した仔を食べしてしまうことがあります。このために生まれた当時は、強く観察する必要があります。もし、メスが産箱内でごろごろと横になり、仔が音をたてて乳を飲む音が聞けるようであればこれは正常です。もし、メスが産箱の外にばかりいるのであれば、情緒不安のしるしです。仔が泣き叫ぶか、または乳をすっているところが見つからなければ、よく注意をする必要があります。その時は、仔を取り出して人工哺育する必要があります。人工哺育の時は、メスの乳と同様な乳を作って与えるのが一番好ましいです。貴国から我国に送られた一つがいのチンパンジーの飼育はよくなっています。ただ、メスの一頭の成長が少しよくありませんでした。昨年12月14日に、左腹内に鳩の胆に似た、やや大きい袋状の腫瘍を見つけました。袋状の腫瘍を診察した結果、切除する手術をすることにしました。正月七日に手術をした後、腫瘍を取り出したら、約5cm×4cmの大きさがありました。手術後、特別に1ヶ月をかけて処置しましたので、傷口も完全によくなくなり、すでに健康を回復しています。順調に成長することは間違いありません。彼らは、おもしろい動作を覚えて毎日沢山の観客の目を楽ませており、上海市民の歓迎をうけています。このことは我々両市の市民の友情の象徴です。最後に、我々の友情が絶えることなく発展することを心からお祝い申し上げます。

上海市西郊公園主任  
主任 趙佈

2月11日

# 動物園ニュース

## ☆ライオンの人工哺育

2月25日、ライオンが1頭生まれました。母親のユキは昭和37年10月に生まれたライオンで、年令も15才を過ぎており、今回が11回目の出産で、27頭目の赤ちゃんです。



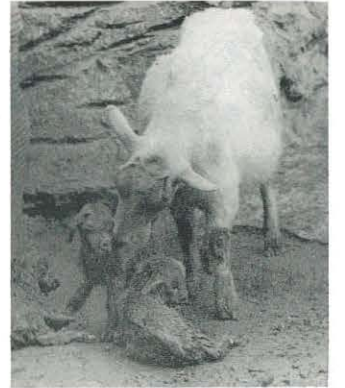
8日目までは順調に育てていたのですが、お

乳の出が悪かったのか急に仔が衰弱してきたため、9日目から人工哺育で育てています。

## ☆ワシミズクのふ化

1月5日から営業していたワシミズクが、1月8日、14日、30日と1卵ずつ計3卵産卵し、抱卵を続けていましたが、2月17日に第1卵がふ化しまし

ありますが3頭共にうまく育つことが少ないので心配しましたが、どうやら順調に育っています。



## ☆新着動物

2月に5種類のカモが入りました。マガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、コガモ、トモエガモ各20羽で一部水禽放養舎に収容し、大半は南園日本庭園の池に放鳥しました。前から居るコバクチョウ、カルガモ等に混って元気よく泳いでいます。

## ☆シュバシコウの巣材入れ

3月末頃からシュバシコウの産卵シーズンが始まりますが、それに先立って放養舎にある6つの巣に

# 夢が広がるショッピング... 近鉄がお届けします



## 近鉄百貨店

# 上海動物園からの便り

昭和49年8月、上海市西郊公園より贈られたクロオオカミが今年1月10日～20日の間、交尾が認められ、妊娠・出産の可能性が濃いため、上海市西郊公園に連絡をとったところ、下記のような手紙が届きましたのでその全文を御紹介しましょう。

日本大阪天王寺動物園長  
中川道朗様  
一月二十三日の来函状を、私に寄来的黑狼交配の事、我很高兴。这是你的精心饲养的结果。希望你饲养黑狼繁殖成功。  
你对黑狼的繁殖、配种的情况介绍如下：  
配种期是在母狼发情期时，配种要安静，室内应保持温暖，最好有暖气。母狼不喜欢冷，可在其身旁吹热风。配种时，母狼应吃饱，配种后，母狼应休息2-3天，在此期间，母狼应吃高蛋白、高脂肪的食物，以促进其发情。配种后，母狼应吃高蛋白、高脂肪的食物，以促进其发情。  
黑狼的繁殖期是60天左右。一般在配种后10天左右，母狼开始发情。配种后，母狼应吃高蛋白、高脂肪的食物，以促进其发情。配种后，母狼应吃高蛋白、高脂肪的食物，以促进其发情。  
黑狼的繁殖期是60天左右。一般在配种后10天左右，母狼开始发情。配种后，母狼应吃高蛋白、高脂肪的食物，以促进其发情。配种后，母狼应吃高蛋白、高脂肪的食物，以促进其发情。  
上海动物园  
主任 李正

大阪市天王寺動物園々長  
中川道朗様  
一月二十三日付書簡を拝見いたしました。お送りした黒狼の交配の写真を大変関心をもって拝見いたしました。貴園が黒狼の繁殖に誠心誠意努力されておられることを知り、その努力は必ず成功されることと信じます。ここで、黒狼の繁殖について、中国での状況をご参考で紹介したいと思います。交配が終われば、メスは隔離して飼育します。そして、環境を静かにし、動物舎内に早くから木製の産箱を置いて下さい。ご承知であろうと思いますが、(産箱は長さ110cm、巾65cm、高さ100cmのもので)箱の中には干草を敷いて下さい。黒狼は、干草を余り食べませんが、地上に敷いておくことがあります。もし、干草を沢山敷くならば、敷物用とされたいと思います。黒狼の妊娠期間は60日前後です。一般的に産まれる仔は3～6頭です。妊娠期の終わり頃は腹が大きくなり、はっきりと受胎していることが分ります。黒狼は敏捷ですが、臆病です。産後には特別の注意が必要ですが、驚くことはありません。初めての出産をした黒狼は、メスとしての経験が欠けているか、母親としての自覚がないなどの原因によって、出産した仔を食べてしまう

# 動物園ニュース

## ☆ライオンの人工哺育

2月25日、ライオンが1頭生まれました。母親のユキは昭和37年10月に生まれたライオンで、年令も15才を過ぎており、今回が11回目の出産で、27頭目の赤ちゃ

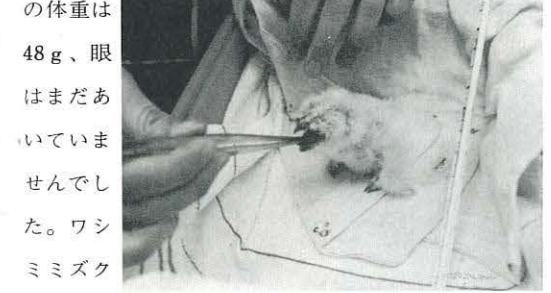


んです。8日目までは順調に育てていたのですが、お

乳の出が悪かったのか急に仔が衰弱してきたため、9日目から人工哺育で育てています。

## ☆ワシミミズクのふ化

1月5日から営業していたワシミミズクが、1月8日、14日、30日と1卵ずつ計3卵産卵し、抱卵を続けていましたが、2月17日に第1卵がふ化しました。しかし、2日目でヒナが死亡したため、残りの2卵は人工で育てることにし、2月19日にふ卵器に移しました。第3卵は無精卵でしたが、第2卵はふ卵器に移した時にすでに嘴あげが始まっており、まもなく無事にふ化しました。ふ化日数は36日でヒナの体重は

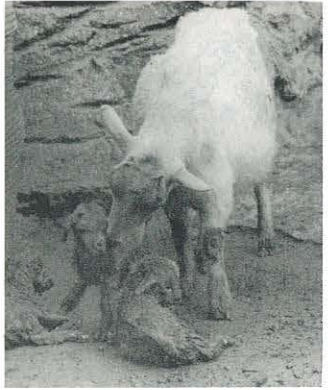


48g、眼はまだあいていませんでした。ワシミミズクの人工育雛はまだ日本では成功例がなく、いろいろ工夫して育てたのですが、7日目に惜しくも死亡しました。体重は死亡時81gと順調に育っていただけに惜しまれます。

## ☆トカラヤギの三つ子

2月28日、トカラヤギが出産しました。ヤギの出産数は普通2頭、もしくは1頭で、時に3頭の例も

ありますが3頭共にうまく育つことが少ないので心配しましたが、どうやら順調に育っています。

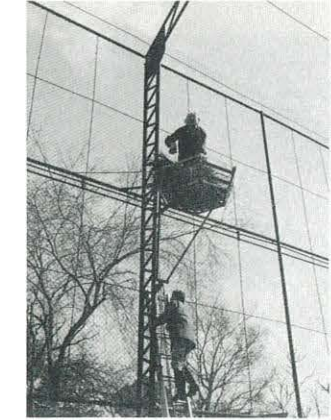


## ☆新着動物

2月に5種類のカモが入りました。マガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、コガモ、トモエガモ各20羽で一部水禽放養舎に収容し、大半は南園日本庭園の池に放鳥しました。前から居るコバクチョウ、カルガモ等に混って元気よく泳いでいます。

## ☆シュバシコウの巣材入れ

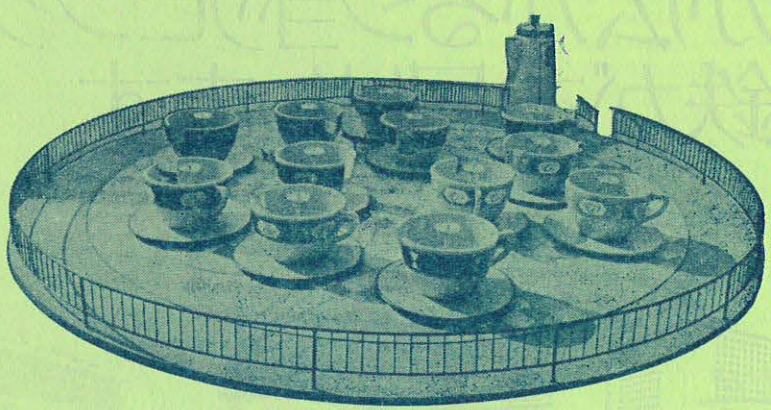
3月末頃からシュバシコウの産卵シーズンが始まりますが、それに先立って放養舎にある6つの巣にその巣材となる柳の小枝を運びあげてやりました。



地上から5m～8mもある巣だけに運び上げるのも大変ですが、1時間ほどかかってようやく巣の準備が整いました。新しい巣材の上でシュバシコウ夫婦はカタカタならせて満足そうでした。

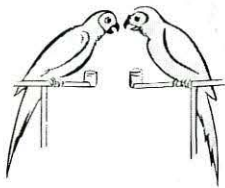
毎月第3月曜日は休園日です。6月までの休園日は下記の通りです。  
3月20日、4月17日、5月15日、6月19日  
開園時間は9時半から5時までで、4時半に切符売止めになります。

# 遊園施設委託経営・製作・販売



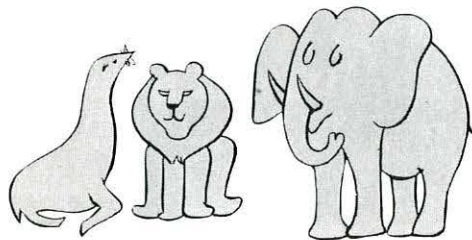
久竹娛樂株式会社  
本社工場 大阪市西区南堀江通3-40  
電話 大阪(06)541-3112・3938番

なきごえ 昭和53年 3月15日発行(毎月1回15日発行) 第14巻第3号(通巻151号)  
 〒543 大阪市天王寺区玉水町2  
 編集/大阪市天王寺動物園 電話 大阪 (06)771-0201  
 発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳 振替口座 大阪 37823  
 印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部)1,100円(送料共)



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種 1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517  
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の  
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



# 雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員 小谷 潔・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三  
 石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・葭谷 文彦